

令和5年度 第1・2回 令和5年5月21日開催

聴くオフ・ミーティング報告書

テーマ「ふるさと納税を考えよう」

～住民税流出額41億円という現実をふまえて～

区では、区政への区民参加の仕組みづくりを進めています。その取組の一つとして、身近な行政課題について、区長と区民が直接意見交換をする区政を話し合う会「聴くオフ・ミーティング」を開催しています。令和5年度第1・2回は、「ふるさと納税を考えよう」をテーマに、一般公募と無作為抽出した2000名の区民の中から参加していただいた37名の方が、ふるさと納税について話し合いました。

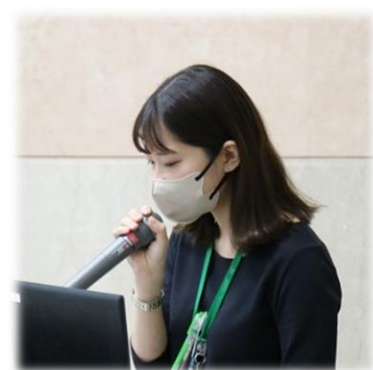
区長から

今日のテーマはふるさと納税ですが、この身近で難しい課題について、本日は皆さんと一緒に考えていきたいと思います。事前アンケートでも、ふるさと納税を行ったことのある方が約半数、制度そのものがよく分からないという方も3分の1以上いらっしゃいます。区としましては、住民税は皆さんが住んでいる自治体が公共サービスを提供するために使うということが、税の基本であると考えており、自治体間の返礼品競争には参加しないという立場です。これは大きく変わることはありません。

住民税41億円の流出という現実を踏まえ、将来を見据えて有意義な意見交換ができればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



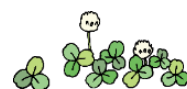
担当課からの説明



ふるさと納税は、自治体への寄附を通して、ふるさとや自らの意思で選んだ地域を応援できる制度としてはじまりました。しかし、他自治体にふるさと納税をすると、住んでいる自治体の住民税が流出してしまうという側面があります。杉並区の住民税流出額は年々増加しており、令和4年度には約41億円に達しました。区の年間の行政サービスで言うと、ごみ収集・資源回収（約42億円）や公園の維持管理整備（約39億円）に匹敵する金額です。

ほとんどの自治体は減収額の75%が地方交付税により、国から補てんされますが、東京23区は補てんがなく、流出額そのまま減収となります。このまま流出が拡大していくと、区の行政サービスに影響しかねない深刻な状況です。杉並区は、本来の寄附文化を大切に、返礼品には頼らず、区の取組を応援してもらいたいと考えています。また、23区全体として国に対し、ふるさと納税制度の抜本的な見直しを要求しています。

杉並区のふるさと納税の使い道には、近衛文麿の旧宅である荻外荘の復原・整備や、動物との豊かな共生社会をめざす寄附金などの具体的な取組、次世代育成基金、NPO支援基金などの、4つの基金があります。基金に寄附をされた区外の方には障害者施設で作った品物を返礼品として差し上げています。また、返礼品を受け取る代わりに、返礼品相当分のプレゼントを児童養護施設や乳児院に贈ることもできます。





グループトーク



◀◀◀ 第1回 10:00~12:30

第2回 14:00~16:30 ▶▶▶

全体トークでは半円状の車座になり、参加者が一人ずつ自分の意見を発表した後、フリートークを行いました。以下は全体トークで出た主な意見です。

●参加者 私たちは納税者として、まずは杉並区の税についてもっと関心を持って現実を知ることが第1歩だと感じました。その上で区民税の使い方について提案できたらよいと思いました。杉並独自のふるさと納税では、物品の提供ではなく、何かを支援するというような形に使えたらよいと思いました。

●参加者 流出額41億円という事実を広く区民に伝えることが必要ではないでしょうか。また、納税者はタックスペイヤーとしての意識の問題があると思います。ふるさと納税はカタログ通販ではないと伝えてほしいです。

●参加者 ふるさと納税は国の制度なので、制度の根幹を変えることは杉並区だけではできません。引き続き23区全体で国への働きかけをしていただき、より良い制度にしてほしいです。

●参加者 住民税がどのように使われているかが、今一つ明確でないことや、ふるさと納税をすることで、どのような還元が得られるのかが分かりにくいと感じました。寄附先がより明確で具体的に選べ、さらに寄附先について、寄附者が何らかの形で参加や体験ができるようになると、寄附してみようという実感をより得られると思います。

●参加者 小学生の高学年や中学生に対して、ふるさと納税の教育をしてほしいです。自分が働いて納税するときに、ふるさと納税についてもきちんと理解できていれば、今よりも良くなるのでは。



全体トーク

●参加者 杉並区はふるさと納税制度から離れて、「杉並応援団プロジェクト」のようなクラウドファンディングでお金を集めてもよいと思いました。荻外荘の整備なども、例えば、杉並にゆかりのあるタレントが、現地から「ここをもっと綺麗に建て直しましょう」と発信している動画を、SNSで流せば、全国から寄附が集まるのではないのでしょうか。

●参加者 いろいろな問題を話し合う時に、まずは現実を知ることが大切です。区報はあまり見ていない区民も多いと思うので、全戸配布したらよいのでは。

●参加者 ふるさと納税は廃止すべきだと思います。

●参加者 自分にとって、今は杉並がふるさとなのだ実感しました。杉並区民の場合は、ふるさと納税との関わりが区外の方とは違いますが、今日の議論を通じて、近くにあるふるさとを思う気持ちが大事だと改めて思いました。

●参加者 私も基本的には廃止すべきだと思っていましたが、制度としてあるので、阿波おどり、阿佐ヶ谷ジャズストリート、アニメなどを活用してはどうかと考えました。

●参加者 皆さんのお話を聞いて、やはり知ることがすごく大事だと思いました。杉並区のホームページは、少し分かりにくいと感じています。

■区長 このテーマでこれだけの区民の皆さんが心配して、応援してくれて、未来と一緒に考えてくれる。そうした皆さんがいるということが、まさに杉並区の強み、誇りだと思いました。

今日の対話を無駄にしないように、政策にもしっかり生かしていきたいです。



●参加者 若い人が興味を持つような、スポーツ・文化施設を充実させることに使われると、ふるさとを愛する幅広い年代の方から納税されると思います。

●参加者 杉並区にも魅力的な寄附先をつくっていくのが大事だと思います。また、寄附の方法や成果などをネットや広報でもっとアピールしたらいいのでは。

●参加者 区民が杉並区の魅力を発見していくことが大切です。また、ふるさと納税で区は何をしたらよいかを公募したり、杉並区の特産品について意見をもらうことも必要です。

●参加者 私みたいふるさと納税や住民税についてあまりよくわからない方もいます。現実いろんな問題が発生していることを広報してほしいです。

●参加者 杉並区のブランドイメージを向上していくということが重要だと考えています。その中で、環境に良い行動体験ができるような、ふるさと納税の使い方というものを推してはいかがでしょうか。

●参加者 私は、よく図書館に行くので、図書館の整備に限定した寄附であれば、返礼品がなくてもよいと思いました。

●参加者 コンサート・演劇等のチケットや、スポーツ施設を開放することを返礼品とすると、他自治体のように焼き菓子スイーツやラーメンなども返礼品にしてはどうでしょうか。

●参加者 寄附した人の名前を公園のベンチに入れたり、子ども食堂のように子どもたちを助ける施策に使うなど、目的をはっきりさせて寄附できたらよいと思います。

●参加者 例えば区内に住んでいるタレントとの食事券や、マラソンで招待選手のすぐ後ろの位置から走れる権利を返礼品にするとか。東京でなければできないものは多々あります。そうしたもので取り返すという発想で臨まないと、やはりこの問題は解決できないと思います。

●参加者 寄附文化を醸成していくために、寄附メニューをもっと増やしていく、そして区外の方に対しても返礼品なしにしてはどうでしょうか。

●参加者 制度としてある以上は絶対利用し、競争には参加すべきではないでしょうか。

●参加者 ふるさと納税をする方は、30代から50代ぐらいがボリュームゾーンなので、そうした年代に届きやすいツイッターやLINEなどのSNSを使って発信するとよいと思います。

■区長 今まで杉並区は返礼品競争には参加していませんが、住民税は流出しています。

これまでそうした状況を区民に対して積極的に伝えられておらず、現在に至っています。返礼品競争に参加しないことは大きなメッセージですが、現状をどうしていくかを区民の皆さんと一緒に考えていく必要があります。それがまさに今回の聴くオフ・ミーティングであり、こうした取組を継続していく仕組みを考えていきたいです。また、返礼品に関しても否定するのではなく、発想を広げて、もう少し普遍的な価値を創造していくこともできると思いました。



区長と話し合う会
聴くオフ・ミーティング

区長の感想（全体を）通して

本日の聴くオフ・ミーティングのような対話や学習の機会においては、皆さんの意見の違いはありますが、いろいろな立場の人たちが会うことによって、共通の思いや解決策、提案などが出てきます。私たち全体のリテラシーが底上げされるような、今回もまた本当にそのような会でした。ふるさと納税のみならず、皆さんの納めた税金がどのように使われているのかを区が発信していくことは、区政における重要な課題です。今後も区民の皆さんに直接意見を伺う機会を積極的につくり、対話の区政を進めていきます。皆さんの知恵や力を、ぜひ区政に生かしていただきたいと思います。ありがとうございました。



ふるさと納税を所管する担当課から

杉並区はふるさと納税本来の趣旨を大切に、返礼品競争には参加しないという立場を取っていますが、一方で、住民税の流出額は年々増加し、大変深刻な状況となっています。

今回のミーティングでは、ふるさと納税制度そのものへの疑問、返礼品に頼った寄附募集に対する批判、寄附メニューをもっと増やした方がよいなど、多くのご意見やアイデアをいただきました。また、区の姿勢・取組を応援して下さる方が多くいらっしゃることを知ることもできました。

今後も皆様の声を伺いながら、ふるさと納税の現状をお伝えし、より多くの方に杉並区を応援していただけるよう取り組んでまいります。



懇談会に参加した感想（複数回答有）

■ 第1回（午前） ■ 第2回（午後）



令和5年度 第1・2回 聴くオフ・ミーティング報告書

〈開催日〉 令和5年5月21日（日）

〈参加者〉 区民37名、区長、区民生活部長、課税課長ほか

令和5年8月 編集・発行 総務部区政相談課

〒166-8570 杉並区阿佐谷南一丁目15番1号 電話 03-3312-2111

